

河洲杯争奪第20回レディースカップ 兼 2021 オータムレディースカップ

書面通知

1. 新型コロナウイルス感染症対策について

- (1) 本大会は限定付き無観客試合で行います。基本的に無観客試合で行いたいところですが、送り迎え等が必要な選手がいるため、家族・同居人に限定した試合観戦を可としております。基本は無観客試合であること、有観客試合ではないことを、認識していただくお願いいたします。
- (2) (一財)北海道アイスホッケー連盟ホームページに掲載されている、「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル(令和3年度版)」について理解し、さらなる注意喚起、感染防止対策の徹底をお願いします。
- (3) 新型コロナウイルス感染症対策に関することも含め、アナウンス、競技役員、ゲームスーパーバイザーの注意に応じないなどの違反行為があった場合は、懲戒処分の審査対象とし、チームの失格、観戦を断ることを含む厳罰を課します。

2. チームの来場について

- (1) スタッフ及び選手はアリーナ1階中央の入口から入場してください。(参照:会場図)
- (2) マスクを着用し、手指消毒液による消毒、体温測定を行ってください。
 - ① マスクは運動時のぞき、常時着用してください。
※ 施設内(特に控室)では必ずマスクを着用するようお願いいたします。
 - ② 消毒液は施設の入口に設置してあるアルコール消毒液をお使いください。
 - ③ 当日、最初の入館時に非接触型温度計等を使った検温を実施します
- (3) 大会参加同意書、14日前からの健康チェックシート、メンバー表を大会本部へ提出してください。
 - ① 同意書は本大会についてのものとなりますので、大会に登録されている選手のものを揃えて、最初の試合に提出してください。
 - ② 健康チェックシートは当日まで記録し、毎日試合ごと提出してください。提出された体温記録あるいは健康チェックシートは、試合後に返却いたします。

3. 控室等について

- (1) 練習開始60分前から使用いただけますが、可能な限り短時間利用を心掛けてください。(参照:控室表)
- (2) 貴重品の保管については、チーム単位でコインロッカーをご利用ください。
- (3) 1チーム1室の利用となります。
- (4) 換気設備の常時運転、ドアの常時開放、窓の開放により、換気を行ってください。
- (5) 控室の出入りについては、前の試合のチームや対戦チームと重なり密にならないよう、係員の指示に従ってください。
- (6) 防具は、アリーナに置いていくことはできません。各自、ホテル等にお持ち帰りください。

(7) 控室などのゴミは各チームで持ち帰って処分してください。

(8) 乾燥室は使用できません。

4. プレイヤーズ・ベンチ

(1) 対戦表の左側チームが、オフィシャルボックスから見て左側のベンチを使用します。

5. 試合進行等

(1) 別紙「タイムテーブル」を参照してください。

(2) 試合前

- ① 試合前の練習への入場は、前の試合のチームが控室に戻った後に行っていただきます。係員の指示に従ってください。
- ② ブルーラインの整列は社会的距離（最低 1m）をとってください。
- ③ チームナンバーの若い方を、試合でのホームチームとします。
- ④ 試合開始に先立ち行う挨拶においては、レフェリーとの接触を避け、後掲するレフェリーからの注意事項にもありますが、握手せず社会的距離をとって礼のみを行ってください。
- ⑤ 相手チームスタッフとの接触を避けてください。
- ⑥ 試合前に行う円陣は小さくならないように配慮し、エアータッチなどの工夫で接触を避けてください。

(3) 試合中

- ① ベンチ内は社会的距離を意識して工夫してください。後掲するレフェリーからの注意事項にもありますが、プレイヤーズベンチのプレイヤーは、ラインズマンとの距離を保つため選手交代時以外は、ベンチにお座りください。
- ② 選手以外のスタッフはマスク・手袋・手指消毒など標準予防策をとってください。
※ スタッフがベンチ内でマスクを外す行為は、注意（応じない場合は懲戒処分）の対象となります。
- ③ 選手への指示は飛沫感染を意識して少なめにし、大声を出さないなど工夫してください。
- ④ 個人の物は、個人で運び、タオル、飲水ボトル等を共用しないでください。
- ⑤ スムーズな試合運営のため、各ピリオドの開始時刻には、GK 含め 6 名が氷上に上がっていること。
- ⑥ 10 点差以上の得点差がついた時点で、次のフェイスオフ後のゲームタイムはランニングタイムとなります。
(ア) 点差が縮まった場合でも継続する。
(イ) 次の場合は時計を止めるものとする。
 - a) 得点時一旦止めるが、レフェリーがオフィシャルに報告にきた時点で、直ちにスタートする。
 - b) 反則発生時一旦止める。次のフェイスオフでスタートさせる。
 - c) 選手が負傷し交代に時間を要する場合やチームからの質問などで時間を要する場合などレフェリーの指示で時計を止める。次のフェイスオフでスタートさせる。

(ウ) 反則時間終了時にプレーが止まっていたら、その選手は次のフェイスオフでパックがドロップされるまでペナルティーベンチから出られない。

(4) 試合後

- ① 両チーム分かれてオフィシャルボックスに向かって社会的距離をとって整列し、試合結果アナウンス後に、両方向に向かって礼をしてベンチにお戻りください。レフェリーや相手ベンチにはいかないでください。



- ② ベンチに戻った選手から帰る準備を短時間で済ませ、退場してください。

6. 試合観戦について

(1) 別紙「試合観戦におけるガイドライン」を参照してください。

- ① 観戦者名簿の提出期限を厳守ください。
- ② 観戦者名簿を大会開催の3日前までに(一財)北海道アイスホッケー連盟事務局にメールでご提出することとなっております。

(2) 他チームの試合観戦は家族も含めできません。

- ① 観客の入替時間の設定はありません。試合開始10分前を目途にご来場いただき、当該試合の観戦後は速やかに退場くださいますようお願いいたします。
- ② ベンチ入り以外の選手の自チームの試合観戦は可能です。しかし、控室の3密回避のため、ベンチ入りの選手と行動を共にすることなく、指定の観戦エリアで観戦ください。
- ③ 監督・コーチの他チームの試合観戦はできません。(自チーム入場時に行っている試合を除く。自チーム入場時は、指定の観戦エリアでご覧ください。)

7. メディア取材について

- (1) メディアからの取材希望を大会本部で受けたのち、大会役員からチームへご連絡いたします。
- (2) 大会本部が指定する場所での取材対応にご協力ください。

8. レフェリーからの注意事項等

(1) 防具

- ① ネックガードなどは、プレイ中に外れてレフェリー・ラインズマンが拾うことがないように正しく装着してください。

(2) 握手の禁止

- ① 試合前、試合後のレフェリー・ラインズマンとの拍手はしないこととします。

(3) 試合中のプレイヤーズベンチ内のプレイヤー

- ① プレイヤーズベンチのプレイヤーは、ラインズマンとの距離を保つため選手交代時以外は、ベンチに座る事。ゲーム中に交代以外の選手がボード沿いに立っているのをラインズマンが確認出来た場合は、そのラインズマンが、当該プレイヤーに注意する。レフェリーが確認できた場合は、チームスタッフに注意する(発見時は、都度、注意する事)。

(4) 試合中断時のパック

- ① 試合中断時のパックは、選手からレフェリー、ラインズマンへの手渡しはしない。プレイヤーは中断時のパックに触れない。
- ② ゴールテンダーがパックを保持したことによりゲームが中断した場合、そのゴールテンダーはリンク上にパックを置き、ラインズマンがパックを拾い上げる事。

(5) プレイヤーズベンチ内での発声

- ③ ゲーム中及びゲーム中断時にプレイヤーズベンチ内でプレイヤーが、大声で叫ぶ行為やベンチスタッフがマスクを外して大声で叫ぶ行為をレフェリーが確認した場合は、当該チームに1度警告を与える。
- ④ 警告後、同じチームプレイヤー及びベンチスタッフが行為を行った場合は、レフェリーは、アンスポーツマンコンダクトのペナルティーを科す。(MISC 10分)
- ⑤ ベンチスタッフが大声を出す行為でペナルティーを科せられた場合は、プレイヤーが代行しペナルティーベンチに入る。
- ⑥ プレイヤーズベンチから大声で叫ぶ行為は、確認出来たが、プレイヤー及びベンチスタッフを断定できない場合は、チームが指名したプレイヤーがペナルティー遂行する。チームがプレイヤーを指名出来ない場合は、レフェリーが指名出来る。
- ⑦ 上記ペナルティーは、感染症対策の一環であり、相手チームに利益を及ぼすペナルティーでは無い。相手チームからのアピールペナルティーでもなければ、そのペナルティについて、レフェリー等に説明を求めることはできない。

(6) ユニホーム

- ① ユニホームの色は、トーナメント表の左側のチームが白系以外、右側のチームが白系を着用すること原則とする。

(7) ビデオサポートシステムについて

- ① レフェリー(ラインズマンの申告を含む)及びゴールジャッジが確認できなかったゴール判定について、レフェリーの判断で両サイドのゴールに各1台設置された定点カメラ映像を再生し、確認を行う。
- ② 当システムの映像はあくまでレフェリーをサポートするものとして活用され、映像確認後に判定を下すのはレフェリーである。
- ③ レフェリーが映像確認をする際には、レフェリースーパーバイザーのみがこれに立ち会う(システム運用者が立ち会うことがある)。レフェリースーパーバイザーが不在の場合は、ゲームスーパーバイザーがこの任務を補助するため映像確認に立ち会うことができ

る。

- ④ ゴール有無の映像確認は、当該プレー直後の、プレー中断時にのみ行なわれる（試合再開後に遡って審議されることはない）。
- ⑤ レフェリーはレフェリー自身の判断でキックショット、インクリーズ等の疑いを抱いた場合もビデオ映像の確認をすることができる。
- ⑥ ビデオ映像の確認によって、ゴールラインを超えていない場合にはノーゴールである。
- ⑦ ビデオ映像の確認によって、レフェリーがキックショットもしくはインクリーズであることが明らかであると判断した場合には、ノーゴールと判定することができる。
- ⑧ ハイスティックによるゴールノーゴールの判定にビデオサポートシステムは使用しない。

【ビデオ確認後の対応例】

ア) ノーゴールとして試合が継続され、直後の中断時に行った映像確認により得点が認められた場合

- レフェリーの判断により当該得点のあった試合時間、試合状況に遡って試合を再開する。
- ペナルティアドバンテージ中に上記の「ゴールが疑わしいプレー」が起こった場合、アドバンテージ中のペナルティのひとつはウォッシュアウトされる。
- 「ゴールが疑わしいプレー後」の試合が継続されている最中に起こったペナルティは、当該得点のあった試合時間、試合状況に遡って科せられる。
- 試合が継続されている最中に起こった当該得点以後の得点は、いずれのチームのものであっても認められない。

イ) ゴールとして試合が中断された直後の映像確認により得点が取り消された場合

- 中断した状況から試合を再開する。
- アドバンテージ中のペナルティのウォッシュアウトは取り消され、中断した時間でそのペナルティが科せられる。